

未来づくり懇談会（白栗）会議録

日 時：平成30年1月16日（火）

18：30～19：52

場 所：白栗自治公民館

出席者：矢板市長、教育長

1 開 会 18：30 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

3 出席者紹介

4 矢板市設定テーマ

持続可能な片岡地区のまちづくりについて

・資料に基づき、人口・高齢化率推移等について説明。

Q1 矢板は人口減少しているが、近隣のさくら市、西那須野、黒磯などは増加しているのか。

A1 さくら市は人口増加傾向にある。ただ旧氏家町のエリアは増えているが、旧喜連川町のエリアの人口減少高齢化の進展は著しいものがある。旧氏家町の人口だけで矢板が抜かれている状況にある。

Q2 氏家の田んぼの中に新しい住宅が増えるのはなぜか。矢板は一向にそういうのがない。農地に家を建てるのは大変難しいのか。

A2 農地を宅地化するには、まず優良農地の場合であれば、農振法があるが、農振地域からの農振農用地からの除外手続きがまず必要。その上で、農地法に基づく農地転用許可という、二つの許可を得ないとできない。

市としては、昨年9月に市の土地利用計画の指針を市独自で作った。県道矢板那須線の矢板バイパスの東側については開発のゾーンだというような位置づけをして、何かあれば積極的に開発の奨励をしていく。

平成29年9月	矢板都市計画区域における土地利用方針を策定。 矢板駅西の新市街地エリアについては、優良農地との調和を図りながら、適切な土地利用を促していく。
平成30年4月	{暮らしのびのび定住補助制度}の拡充。 矢板駅西地区と矢板那須線バイパス周辺を含む新市街地エリアの住宅取得について「特定地域加算」を追加。

Q 3 人口が増えている、つつじが丘、桜が丘という住宅団地があるので、どのように人口を増やす施策をしていくのか。全体の動き、地域開発の動きを話してほしい。

A 3 人口減少社会の克服戦略と適応戦略があるが、片岡はまだ人口をもっと伸ばせる余地があると思う。矢板市全体で見れば人口減少の克服戦略・適応戦略バランスよく半々くらいでやっていかなくてはいけないが、片岡地区で言えば、克服戦略の取組みができる。ちなみに泉地区はむしろ人口減少の適応戦略に重きを置いていく必要があると思っている。

つつじが丘ニュータウンについては、片岡駅の西口整備、駅舎の橋上化と東西自由通路が設置をされ、片岡西通りにアクセスする道路も完成したことで、つつじが丘ニュータウンと片岡駅との間のアクセスが飛躍的に向上したと思う。

また、高低差があって難しいが、片岡駅西口とつつじが丘を結ぶ道路の整備は必要だと思う。片岡駅の西側も商業施設を駅前に配置できるような都市計画の見直しも必要と思っている。

片岡地区は交通が便利だと言われるが、南北方向のみで東西の交通軸がないと思っている。安沢街道の丁字路と玉田街道の丁字路がつながれば、国道4号と片岡西通りがつながるので、片岡地区の中での人の動き、モノの動きも活発になり、他の地域からもいろいろなものを取り込める可能性が広がると思っている。

5 意見交換

Q 1 石関の踏切の拡幅は難しいのか。

A 1 J Rとの協議というのは物凄く難しい。踏切を作るのは時間もかかる。

Q 2 現在、白栗行政区内で行われている河川改修工事が、97mが完了する。

全体完成までの継続性はあるのか。

A 2 菅の沢川のことかと思うが、農業土木関係は全体的に厳しく本年度は補助金がなかった。今回は補助分で用意していた財源を活用して下流の部分を行ったところ。補助事業は延長370mを予算化し、市の負担分については確保をしたいと考えている。補助事業は今年も再挑戦する。

県道塩谷・喜連川線の整備計画とも密接に関係しているので、早急な予算化を県にもお願いしている。

Q 3 県道塩谷・喜連川線の工事はいつ頃完成の予定なのか。

A 3 県道塩谷・喜連川線の片岡工区については、片岡中学校から出てきたところから国道4号側の部分が優先区間として行われている。片岡中学校から越畑方面はそれ以降になると思う。

Q 4 小山と矢板が内定されたが、間違いなくフットボールセンターを作ってもらいたい。

A 4 昨年12月に施設整備と運営をNPO法人たかはら那須スポーツクラブにお願い

いすることにしたが、フットボールセンターの整備に対する賛否はある。市はスポーツと観光を結び付けたスポーツツーリズムを推進していこうと思っているので、全体の施策の中で、フットボールセンターの必要性、意義を引き続き訴えていく。

平成 28 年 9 月	民間活力導入可能性調査業務を委託
平成 29 年 6 月	民間活力導入可能性調査の結果を議会全員協議会で報告。
平成 29 年 7 月	NPO 法人たかはら那須スポーツクラブから民設民営での実施提案書提出。
平成 29 年 10 月	事業計画検証業務を委託 検証結果、実現可能性ありと報告。
平成 29 年 12 月	12 月定例会で NPO 法人たかはら那須スポーツクラブに施設整備及び運営を委ねる旨を表明。

Q 5 片岡で自転車のレースもあり、すごく人が集まった。そうすると必ずお金を落としていくと思う。だからスポーツはすごく盛り上がると思う。

A 5 スポーツツーリズムは、単にスポーツを振興するのではなくて、スポーツと観光を結び付けて、外から人を呼びこんでお金を落としてもらうか、という仕組みづくり、仕掛けづくりが重要。そこはまだまだ足りないと思う。

平成 29 年 7 月	J プロツアーやいた片岡ロードレース初開催 (参加者数 506 人、来場者数約 7000 人)
平成 29 年 8 月	八方ヶ原ヒルクライムレースの開催 (参加者数 662 人)
※上記大会のほか、地域おこし協力隊が企画する、YAITA カップ (一般対象レース) を年数回開催。	

Q 6 中高一貫校の矢板東高校と市との関わりは。

A 6 県立高校、県立中学校ということで、直接、市が関わりを持っていくというのはなかなか難しい。平成 28 年度から、矢板武塾で高校生の居場所づくり、高校生が集まるまちづくりについて、高校生の皆さんに研究をしてもらった。本年度は、参加メンバーを高校生限定にして研究をしてもらった。特に駅前を盛り上げていこうと検討しているので、附属中の生徒にも参加をしてもらえればと思う。

平成 28 年度	矢板武塾の開催 参加人数：13 人 (うち高校生 9 人)
平成 29 年度	矢板武塾の開催 塾生主導で「高校生の居場所づくり」について検討。参加人数：11 人 (すべて高校生)
平成 30 年度	高校生を主体とするまちづくり団体の活動を目指す。 継続的に高校生が主体となった活動を支援。

Q 7 大田原ではタブレットを用いて英語教育をしようとしているが、矢板市ではどのように子どもたちの学力向上をするのか。

A 7 タブレットと電子黒板については、来年度の予算で 3 校分を要求している。また指導主事も一人増や、学力向上推進リーダーという、先生の中にリーダーを作

った。家庭学習の習慣化として家庭学習ノートコンテストを今年度行う。

さらに、矢板、泉、片岡の3公民館で塾の先生の力を借りて、土日に子どもたちが集まって勉強する機会を作っている。

平成 29 年度	家庭学習ノートコンテストを実施。 塾等との連携による学習教室の実施。 各学校では、授業改善に向けての研究等行っていく。 学力向上応援団・道徳教育応援チーム・学力向上推進リーダー事業を通して国語・算数・数学・道徳の授業改善、指導力の向上を図っている。
平成 29 年 12 月	英語科 DVD を作成し、市内全小学校に配付
平成 30 年度	学力向上応援団事業の継続。 学力向上推進リーダーを 1 名から 2 名に増員。 リーダー配置校を増加。 英語科 DVD (第 2 弾) を作成予定。 外国語活動の専科教員を小学校 4 校に配置。